

## 社会教育施設の自己紹介

### 【施設名】アサヒビール大山崎山荘美術館

#### 【施設概要】

アサヒビール大山崎山荘美術館は、1996年4月に開館しました。実業家・加賀正太郎によって大正初期から昭和初期までに建築した「大山崎山荘」を基盤にしていますが、美術館となるまでには紆余曲折を経ています。加賀正太郎は加賀証券の経営やニッカウキスキーの出資者でもある事業家であり、同時に1万鉢にも及ぶ本格的な洋蘭栽培でも知られる数寄者でもありました。



↑【美術館全景】

「大山崎山荘」も彼自身が設計した重厚な英国風山荘ですが、没後昭和40年代には所有が離れ、それから時を経てバブル時期には、荒廃が進む山荘を取り壊し、新たにマンションを建設する予定となっていました。それに対して地元大山崎町の住民の方を中心に、地元の名士が建築した「大山崎山荘」を遺し、天王山の景観を保存しようという運動が盛り上がることとなります。



#### ←【本館展示室】

実は、加賀正太郎は自身の死を前にして、関西の財界人として知己であったアサヒビール初代社長・山本爲三郎にニッカウキスキーの株を譲り、後を託していた経緯がありました。

こうしたことから、京都府から「大山崎山荘」の修復、再生について相談を受けていたアサヒビールはその要請に応えることとなりました。

アサヒビール、京都府、大山崎町の三者協力のもとに敷地を購入、建築家・安藤忠雄によって、建物の大規模な修復工事が行われると同時に、「新旧の協調」をコンセプトに新館（絵画館『地中の宝石箱』）が併設され、近代遺産を芸術文化により再活用をはかっております。

開館後、2004年には「大山崎山荘」の本館や茶室など計6箇所の建物が国の有形文化財に登録されています。

#### 【新館展示室】→

当館の主たる所蔵品は、美術館の開設にともなって山本爲三郎の遺族から寄贈されたもので、民藝運動に参加した個人作家の陶器や木彫、染色作品等に加え、日本、中国、朝鮮、西欧の古陶磁など、約



1,000点となっています。

山本はアサヒビール社長を務める一方で、各界の名士と交流を深めました。芸術文化を深く理解し積極的な支援を続け、現在の「企業メセナ」の草分け的存在としても知られています。山本は特に柳宗悦との出会いをきっかけにして民藝運動を初期の頃から支え、そのコレクションは、柳宗悦や河井寛次郎、濱田庄司、バーナード・リーチ等との深い交流によって蒐集されたものになっています。

本館展示室（「大山崎山荘」部分）では、この山本コレクションを中心に（※企画展ごとに展示数は変更）、新館展示室では、アサヒビール社コレクションである印象派、クロード・モネの『睡蓮』連作などをご覧頂けるようになっています。

### 【特色ある取り組み】



アサヒビール大山崎山荘美術館は、近年、地元関西の大学との連携プロジェクトを行っています。

京都造形芸術大学や神戸大学の学生によるワークショップやギャラリーツアーや、現在活躍中の作家と館所蔵作品とをコラボレートする館独自の展覧会企画を行ってきました。

#### ↑【モネ『睡蓮』を題材とする神戸大学のワークショップ】

2006年には京都造形芸術大学と協働のもとに、企画展「ラブ?レター 現代女性作家たちから巨匠たちへ」を開催しました。この展覧会では、4名の女性の現代美術家（イチハラヒロコ、澤田知子、木村友紀、流麻二果）から、モネなどの巨匠作家へ、それぞれラブレターとなる作品を制作して贈るというコンセプトのもとに展開されました。

また地元ボランティア・大山崎ふるさとガイドによる山荘ツアーや、茶事家と協働して中国茶を新たな形で楽しむ中国茶会を定期的で開催したりするなど、「大山崎山荘」という建物や周辺の自然環境を活かした活動を行っています。

#### 中国茶会の様子】→

本年、企業メセナ協議会主催の「メセナアワード2007」において文化庁長官賞を受賞しました。近代建築を文化創造的に活用した先駆的な事例として紹介され、同時に大学や地域との連携による活動で地域の文化力を高めているとの評価を受けたものです。



### 【ここ数年の来館者の推移】

アサヒビール大山崎山荘美術館は開館以来約 11 年半を経て、毎年 10 万人前後で推移し、2007 年 9 月の初めには 120 万人目のお客様をお迎えしています。山荘美術館は、天王山や庭園を含めた周囲の自然環境に恵まれていることもあって、四季折々の美しさを見せる庭園も人気が高く、桜や睡蓮、紅葉などの時期には特に多くの来館者を迎えます。

### 【これからの企画展等の紹介】

アサヒビール大山崎山荘美術館は、所蔵コレクションや自然、歴史環境を基盤にして、そこに現代の新たな付加価値をもたらすことを念頭に入れ、地域との一体化をはかりながら展示を企画しています。大規模な巡回展のようなものはほとんど開催しておらず、館独自の企画を行ってきました。

本年度は「ゑげれすいろは 版画家 川上澄生」、「花咲くころ モネ、ルノワールから須田悦弘、澤登恭子まで」、「河井寛次郎 炎の造形」、「天空に糸を綴る 住田啓子ジュリアードレース」を開催してきました。

平成 20 年 2 月 20 日（火）～5 月 11 日（日）

#### 「大山崎山荘、柚木沙弥郎 染の仕事」

染色家・柚木沙弥郎の作品には、ヴィヴィットな配色と明快なデザインは現代の生活スタイルに似合う自由さが溢れています。館の建物と響き合っ生み出されている新しい風景の中に、布のもつ現代における用の形、創造性を提示する機会ともなれば幸いです。

平成 20 年 5 月 14 日（火）～7 月 6 日（日）

#### 「名品コレクション展」（仮）

山本爲三郎コレクションとして伝わる陶磁器や、加賀正太郎ゆかりの『蘭花譜』、そしてアサヒビールコレクションのモネ『睡蓮』をはじめとする近代絵画や彫刻。1000 点の収蔵品の中から選りすぐりの名品をご覧ください。

平成 20 年 7 月 10 日（木）～9 月 7 日（日）

#### 「大山崎からかける橋」（仮） 京都造形芸術大学との協働企画

大山崎にはかつて、高僧行基がつくった淀川をまたぐ山崎橋がありました。パラモデル、セリーナ・オウら3組の美術家が大山崎に滞在、作品制作を行い、歴史ある町の過去から未来に向けて美術で橋を掛ける展覧会です。

美術館から町中までが展覧会場となります。